資　料　編

計画策定の経過

◆　次世代へ光り輝く「教育立県ちば」を推進する懇話会

第３期教育振興基本計画策定に向けて、教育に関する課題等を整理し、幅広い視点から意見交換を行うため、平成 30 年５月に設置しました。

○　委員及び特別委員

（　委　員　）

氏　　名	役　　職
天　笠　　茂	千葉大学　特任教授
大　田　　紀　子	千葉県ＰＴＡ連絡協議会　会長
貞　廣　　斎　子	千葉大学　教授
銭　谷　　眞　美	東京国立博物館　館長
中　山　　理	麗澤大学　学長

（特別委員）

氏　名	担当分野	役　職
明　石　　要　一	学校指導体制の整備	千葉敬愛短期大学　学長
久留島　　浩	体育・スポーツと文化の振興	国立歴史民俗博物館　館長
佐　藤　　愼　二	特別支援教育	植草学園短期大学　主任教授
白　水　　始	子供の資質・能力の向上	東京大学　教授
鈴　木　　みゆき	家庭・地域の教育力の充実と活用	国立青少年教育振興機構　理事長
永　田　　繁　雄	道徳教育の充実	東京学芸大学・教職大学院　教授
浪　越　　一　喜	体育・スポーツと文化の振興	帝京大学　教授
藤　川　　大　祐	子供の資質・能力の向上	千葉大学　教授
保　坂　　亨	いじめ・不登校防止	千葉大学　教授

（教育現場の代表）

氏　名	担当分野	役　職
百　瀬　　明　宏	学校教育	秀明大学教育研究所　副所長
藤　田　　武	社会教育	さわやかちば県民プラザ　所長

○　実施日・場所

会　議	実施日	場所
第１回	平成 30 年 7 月 31 日（火）	TKP ガーデンシティ千葉
第２回	平成 30 年 9 月 3 日（月）	ホテルポートプラザちば
第3回	平成30年10月15日（月）	千葉県教育会館
第4回	平成30年11月2日（金）	ホテルポートプラザちば
第5回	平成31年1月15日（金）	千葉県教育会館

○　協議の内容

会　議	協議テーマ・意見交換の内容
第１回	・自己紹介を含む教育全般に係る意見
第２回	・子供の資質・能力の向上道徳教育の充実
第3回	・学校指導体制の整備 ・いじめ不登校防止、特別支援教育、魅力ある学校づくり　等
第4回	・家庭・地域の教育力の向上と活用 ・体育・スポーツと文化の振興
第5回	・6 つのテーマに関する追加の意見、千葉県教育の目指す姿

○　主な意見

・「教育立県ちば」として、国の教育政策に先駆け、都道府県をリードする特色ある教育政策を打ち出し、具体化を図るとともに、我が国の教育に責任ある役割を果たし、位置を占める、教育県を目指してほしい。

・　学校統廃合への対応など、教育力の地域間格差を解消するために、県が積極的に市町村をリードしてほしい。

・　予想もしなかった事態に直面しても、子供たちが解決策を他者と一緒に練り上げたり、新たな価値を創造したりするためには、学校教育の中で、子供たちにレジリエンス(打たれ強さ) を育てることが大事である。

・　子供たちに、現代社会の課題を実践的に解決するための資質･能力(ＯＥＣＤが言うキー･コンピテンシーが近い) の育成が大切である。そのためには、産学官連携による千葉県のリソースを生かした教育に取り組む必要がある。

・　授業を変えれば子供が変わる。授業改善のためには、埼玉県が取り組んでいるように教員同士が協働で授業を研究する体制の支援が必須である。

・　「道徳の時間」が「特別の教科　道徳」に位置付けられたが、千葉県独自の郷土・地域教材の開発と活用を推進するとともに、全国に先駆けて取り組んでいる高等学校の「道徳を学ぶ時間」の一層の充実を図ってほしい。

・　コミュニティ・スクールを推進するためには、ＰＴＡ会長経験者等をコーディネーターとする地域学校協働本部とセットで進めるとよい。

・　今後は、いじめや不登校の原因の一つとなっている子供の貧困問題への対応が、第３期基本計画策定に向けての大きな課題である。

・　市町村教育委員会と連携して、小学校、中学校の「通常学級」での特別支援教育、「通級による指導」、「特別支援学級」の一層の充実を図る必要がある。

・　家庭教育への支援は、保護者がセルフ・エンパワーメント(自己強化、主体的行動の強化) ができるような支援を目指すとともに、支援を受けた保護者が支援をする側に育つという支援の循環システムづくりが必要である。

・　総合型地域スポーツクラブは、スポーツを通じた健康増進、子育て支援、障害者スポーツに取り組むなど、地域住民が参画する地域づくりに大変有効であるので、市町村に総合型地域スポーツクラブの設置を一層働きかける必要がある。

・　子供と一緒に学区を歩いて、学区の歴史を学ぶ学習に取り組んでほしい。今ならまだ江戸時代の痕跡が残っており、学区の中の文化財、歴史的遺跡について学ぶことができる。水害や津波など、歴史に学ぶことはとても大事である。

・　訪日の外国人だけでなく、これからは外国人労働者も増加する。国際化、グローバル化を考えると、子供たちに異文化理解力、コミュニケーション能力、人間関係能力などの資質・能力の育成が必要である。

・　子供たちに自尊心を育てる必要がある。そのためには、家庭では両親が、学校では教員がロールモデルとなる必要がある。そして、教員が自信を持って教育を行い、子供の人間性をきちんと評価し、尊重することが大切である。

◆　次世代へ光り輝く「教育立県ちば」を実現する有識者会議

第３期千葉県教育振興基本計画の策定に向けて、千葉県教育の施策や具体的な取組について意見を聴くため、平成 31 年４月に設置しました。

○　委員及び特別委員

（　委　員　）

氏　　名	役　　職
天　笠　　茂	千葉大学　特任教授
大　田　　紀　子	千葉県ＰＴＡ連絡協議会　顧問
久留島　　浩	国立歴史民俗博物館　館長
最勝寺　　奈　苗	ＫＤＤＩ株式会社　理事
貞　廣　　斎　子	千葉大学　教授
銭　谷　　眞　美	東京国立博物館　館長
鈴　木　　みゆき	国立青少年教育振興機構　理事長
中　山　　理	麗澤大学大学院　特任教授
福　中　　儀　明	千葉県私立中学高等学校協会　副会長
渡　部　　茂　樹	千葉県経営者協会　専務理事

（特別委員）

氏　名	担当分野	役　職
岩　崎　　久美子	志を持ち、未来を切り拓く、ちばの子供の育成	放送大学　教授
藤　田　　晃　之		筑波大学　教授
宮　崎　　英　憲	家庭と地域の絆（きずな）を深め、全ての人が活躍できる環境の整備	全国特別支援教育推進連盟　理事長
宮　本　　みち子		放送大学　客員教授、千葉大学　名誉教授
友　添　　秀　則	「誇り」と「安心」を育む学校の構築	早稲田大学　理事
百　瀬　　明　宏		秀明大学教育研究所　副所長
吉　田　　研　作	世界を舞台に活躍する人材の育成と、「楽しい」「喜び」に満ちた社会の創造	上智大学言語教育センター長
小笠原　　匡		能楽師狂言方和泉流、千葉大学　客員教授
マセソン　　美季		日本財団パラリンピックサポートセンター プロジェクトマネージャー

○　実施日・場所

会　議	実施日	場所
第１回	令和元年５月９日（木）	ホテルポートプラザちば
第２回	令和元年５月30日（木）	TKP ガーデンシティ千葉
第３回	令和元年７月22日（月）	ホテルポートプラザちば
第４回	令和元年８月１日（木）	TKP ガーデンシティ千葉
第５回	令和元年９月９日（月）	ホテルポートプラザちば

○　協議の内容

会　議	協議テーマ・意見交換の内容
第１回	・自己紹介を含む教育全般に係る意見
第２回	・志を持ち、未来を切り拓く、ちばの子供の育成 ・家庭と地域の絆（きずな）を深め、全ての人が活躍できる環境の整備
第３回	・家庭と地域の絆（きずな）を深め、全ての人が活躍できる環境の整備 ・「誇り」と「安心」を育む学校の構築
第４回	・世界を舞台に活躍する人材の育成と、「楽しい」「喜び」に満ちた社会の創造
第５回	・４つのテーマに関する意見のまとめ、第３期計画の施策体系

○　主な意見

・　千葉県の学校を、高い能力と気持ちを持った学生に選んでもらえる職場にしていただきたい。

・　千葉県が持つ歴史文化資産や、質の高い博物館を活用した、千葉県ならではの教育を進めることができるとよい。

・　千葉は首都圏にありながら、非常に自然が豊かで、山も川も海もある。そうした自然の魅力を生かした教育を、次期計画に盛り込んでいただきたい。

・　部活動指導や外国人児童生徒の日本語教育、貧困家庭の子供への学習支援などに、退職後の教員を活用することもできるのではないか。

・　経団連が国に提出した意見書に、新しい教育課題に対応できる教員の養成・確保がある。「千葉県教育の目指す姿」の中に、「教員の目指す姿」があればいいと感じている。

・　学校教育では卒業後、必要に応じて自ら自己決定的に学習を行い、自分で学習を律することができる資質・能力を身につけさせて社会に送り出してほしい。

・　子供たちに必要な資質・能力を育むためには、各教科等の学びを通じてどのような力が身につくのかという、教科等を学ぶ本質的な意義を明確にする必要がある

・　障害のある人の生涯を通じた多様な学習活動の推進について、千葉県が平成３０年度に実施した実践研究事業の取組の一層の拡大をお願いしたい。

・　学校の先生方も非常に忙しい中ではあるが、学校には地域連携のプラットフォームになっていただきたい。

・　中高生のスポーツ権が保障できなくなり、同時に教育問題の複雑化で教員が疲弊している。新しい学校スポーツや地域スポーツの在り方を検討する必要がある。

・　教師を志望する学生の多くは中学校で大きな影響を受けており、高校選びが教師への第一歩である。高校の教員基礎コースを増やしてもいいのではないか。

・　今の中高生には、自信が無い、外国語を使いたくないなど、自己肯定感が低い様子がかいま見られる。どのように自尊心や自信を持たせるのかが一番大事である。

・　千葉県でも、伝統文化にふれる環境づくりをもっと進めていただき、子供たちに本物に触れさせることが大切である。

・「『楽しい』『喜び』に満ちた社会の創造」のためには、セルフエスティーム（自己肯定感）を高めることが大切である。

・　子供たちの健やかな成長に影をさすものとして、いじめ、不登校、児童虐待、高校の中退などの問題がある。そうした問題について、県の教育界として最大の課題として取り組んでいくことを、どこかに書いてほしい。

・　計画全体を貫く視点としては、一つに「千葉県民としての誇り」がある。これは特定の施策だけでなく、全ての施策を通じて目指すべきだが、第３期計画の案では、そこが渾然一体となっており、きれいに整理し切れていない。

・　千葉県でも、Society5.0を目指し、人間的な強みを養成するような教育体制の構築を考えなくてはいけない。これまでの議論に出てきた自尊感情、誇り、志など、人間的な強みの育成という論点をうまくはめ込めると、千葉の具体的な教育方針との有機的な連関を実現するうえで、一つの突破口になるのではないか。

・　有識者会議の中で、委員・特別委員からの意見のベースになっていたものは、自己肯定感と、それぞれの人の自己実現の在り方を決して差別せずにリスペクトする、この２つではないか。自己肯定感や志、誇りなどが基本目標全体のベースになることが分かるような立て付けにしていただきたい。

◆ 千葉県教育振興基本計画関係者会議

千葉県教育振興基本計画の策定にあたり、教育関係団体等との意見交換を行うことにより、幅広い意見を計画に反映させることを目的に開催しました。

○ 委員及び特別委員

千葉県小学校長会

千葉県中学校長会

千葉県高等学校長協会

千葉県特別支援学校長会

千葉県国公立幼稚園協会

（一社）千葉県私立中学高等学校協会

（一社）全千葉県私立幼稚園連合会

千葉県私立小学校協会

千葉県市町村教育委員会連絡協議会

千葉県都市教育長協議会

千葉県町村教育長協議会

（一社）千葉県商工会議所連合会

千葉県商工会連合会

（一社）千葉県経営者協会

千葉県中小企業団体中央会

千葉県教職員組合

千葉県高等学校教職員組合

千葉県 PTA 連絡協議会

千葉県高等学校 PTA 連合会

千葉県特別支援学校 PTA 連合会

千葉県国公立幼稚園・こども園
PTA 連絡協議会

（一社）千葉県子ども会育成連合会

（公財）千葉県教育振興財団

（公財）千葉県文化振興財団

千葉県高等学校文化連盟

（公財）千葉県スポーツ協会

（一社）千葉県障がい者スポーツ協会

千葉県小中学校体育連盟

千葉県高等学校体育連盟

千葉県特別支援学校体育連盟

○　実施日・場所

会　議	実施日	場所
第１回	令和元年５月20日（月）	千葉県教育会館　新館501
第２回	令和元年12月17日（火）	千葉県教育会館　新館501

○　主な意見

・　東京オリンピック・パラリンピックを契機として、世界中から来る方々と子供たちがつながることは非常に大事だと思うが、東京オリンピック・パラリンピックの大事な点にはもう一つ、障害のある方々がごく普通に日常生活で一緒に生活ができる共生社会を目指すこともある。そうした観点も取り入れてほしい。

・　第３期計画に掲載されることは、財政的な裏づけをもって実現されていくことになるのか。かなり総花的であり、いろいろなことをみんなやりますという印象である。せっかく作るのだから、もう少し施策を絞り込んで、予算の裏づけがあって反映されるものでなければ、もったいない。

・　学校の現場は本当に大変な状況がずっと続いている。教員の数を増やすことと、待遇改善がないと学校は元気にならないのではないか。今、学校はブラックという風潮も全国的にも出ており、これが解消されないと、採用試験の志願者数も減り、結果的に教育の質も落ちてしまう。

・　計画素案には「千葉県は三方を海で囲まれ、温暖な気候、豊かな自然に恵まれ」、「非常に自然が豊かで、山もあり、川もあり、そして海もあります」とあるが、今年、私たちは、自然の猛威を経験した。台風の被害等を受け、自然とどう関わるかといったことも指摘するべきではないか。

・　１人も取りこぼさない教育と強くうたっているのは素晴らしいが、多様な困難を抱えている子供たちを、もっと包括的に支えていくことが大事ではないか。これからはインクルーシブ教育という視点が大事である。全てこぼさずに、皆、包括していく、支えていくという視点を明確にしてほしい。

・　千葉県の教育の振興を考えるのであれば、その最前線にいる教員を、私もなりたいという職場に変えていく視点がないと、何をやってもうまくいかないと思う。このままでは、先生が１人もいなくなってしまうのではないか。

・　「外国人児童生徒等の受入れ体制の整備」について、現在、幼稚園や認定こども園に通っている幼児にも海外の方が多い。計画素案の中では、「児童生徒等の受入れがスムーズに行われるよう」とあるが、幼児に対する施策も打ち出していただきたい。

◆　中学生・高校生との交流会

「中学生・高校生との交流会」を令和元年度は県内６会場で開催し、中学生・高校生から意見を聴きました。

○　実施日・場所

会　議	実施日	場所
葛南地域	令和元年７月 29 日（月）	県立薬園台高等学校
東葛飾地域	令和元年８月２日（金）	さわやかちば県民プラザ
印旛地域	令和元年８月６日（火）	県立八街高等学校
海匝地域	令和元年８月９日（金）	県立匝瑳高等学校
東上総地域	令和元年７月 24 日（水）	県立一宮商業高等学校
南房総地域	令和元年８月６日（火）	県立袖ヶ浦高等学校

○　参加者数

計　235 名（中学生　133 名、高校生　102 名）

○　主なテーマ

・　中高生の読書離れと言われるようになって久しいが、どうすれば、中高生の読書時間は増えると思うか。

・　令和の新しい時代を迎え、情報化社会を生きていくうえで、中高生のスマートフォン等の上手な使い方について考える。また、こうした情報化の時代に、社会の一員として身に着けておくべきモラル（道徳性）や規範意識、公共のマナーについて考える。

・　自分の通う学校について自慢できることは何か。また、自分の通う学校をもっとよくするために、自分たちにできること、他の学校から学べることは何か。

・　地域の安心・安全のために中高生ができることは何か。～交通事故の防止やスマートフォンの適正な使い方等について～

・　地域を活性化するために中高生として何ができるか。

・　障害のない人が、障害者理解を深め、障害のある人と共に社会を作るために、私たちができることは何か。

・　部活動の時間について。最近、部活動の時間の削減が叫ばれているが、中高生はどう考えているのか。

◆　パブリックコメント

ちばづくり県民コメント制度に基づき、第３期千葉県教育振興基本計画（素案）について、県民からの意見を募集するため実施しました。

○　実施期間

令和元年 12 月 14 日（土）から令和２年１月 14 日（火）まで

○　提出意見数

12 名、延べ 71 件

資料編

用　語　解　説

ＩｏＴ

Internet of Things（モノのインターネット）の略で、センサーを搭載したモノ同士がインターネットを介してつながることにより、人が介在しなくてもモノが自動でサービスを提供してくれるシステムのことをいいます。

アウトリーチ型の支援

福祉や医療、保健といったサービスを利用する際、その窓口となる施設等でサービスを提供するのではなく、自宅や入院している医療機関等、サービスを受ける人がいる場所までサービス提供者が赴いてサービス提供する方法のことです。

いきいきちばっ子「元気アップ・プラン大作戦」コンクール

千葉県教育委員会が策定した「いきいきちばっ子健康・体力づくりモデルプラン」を活用するなどして、積極的に健康・体力づくりに取り組んだ学級・学校を表彰するものです。

インクルーシブ教育システム

障害者の権利に関する条約第 24 条によると、「インクルーシブ教育システム」とは、人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が教育制度一般から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な合理的配慮が提供される等が必要とされています。

ウェルビーイング（主観的幸福感）

身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念で、「幸福」と翻訳されることも多い言葉です。1946 年の世界保健機関（ＷＨＯ）憲章の草案の中で、「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態（well-being）にあることをいいます」と用いられています。

運動能力証

児童生徒の体力・運動能力の向上を図り、活力にあふれる健やかな児童生徒の育成を目指して、千葉県教育委員会が運動能力の優秀な児童生徒に交付しているものです。

栄養教諭

栄養指導及び管理をつかさどる教員。子どもが将来にわたって健康に生活していけるよう、「食の自己管理能力」や「望ましい食習慣」を子どもたちに身に付けさせることも目的に平成 17 年に制度化されました。

ＳＤＧｓ

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略で、2001 年に策定されたミレニアム開発目標（ＭＤＧｓ）の後継として、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標です。ＳＤＧｓは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものです。

外国語指導助手（ＡＬＴ）

Assistant Language Teacher のことで、外国の青年が、小・中・高等学校において日本人外国語教員と協力してティーム・ティーチング（協同授業）により語学指導を行います。クラブ・部活動や教員との交流などの活動も行っています。

学習指導要領

全国どこの学校でも一定の水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準です。およそ 10 年に 1 度、改訂しています。子供たちの教科書や時間割は、これを基に作られています。

学校を核とした県内 1000 か所ミニ集会

地域住民の声を学校運営に生かす開かれた学校づくりや地域コミュニティの構築を目的として、原則として県内全ての公立学校を会場に、地域住民が参加し、保護者や学校職員と学校・家庭・地域の様々な教育課題について語り合う、千葉県ならではの特色ある取組です。

家庭教育支援員

家庭教育支援体制を強化するために地域の身近な小学校等に配置される、家庭教育に関する情報提供や相談対応等を専任で行う支援員を指します。

家庭教育支援研究協議会

各地域の家庭教育支援に関する現状や課題、取組を共有した上で家庭教育支援の在り方について協議し、家庭・学校・地域が一体となって子供たちを育てる環境作りを推進するため、市町村及び学校等において、家庭教育支援及び子育て支援の業務に携わっている方を対象に開催している協議会です。

家庭教育支援チーム

子育て経験者をはじめとする地域の多様な人材で構成された自主的な集まりであり、身近な地域で子育てや家庭教育に関する相談にのったり、親子で参加する様々な取組や講座などの学習機会、地域の情報などを提供したりします。

家庭教育リーフレット

千葉県教育委員会が、各家庭の教育力の向上を図るため作成しているリーフレットのことを指します。基本的な生活習慣や親子のコミュニケーションなどの家庭教育のポイントをまとめており、３歳児、小学１年生、小学４年生、中学１年生の全ての保護者に配布しています。

環境学習

「環境を学ぶ」という意味を表す言葉として、環境教育と環境学習がありますが、両者に厳密な区分はなく、一般的には同義に使われています。千葉県では環境教育と環境学習の総称として、環境学習という言葉を用いています。

キャリア教育

社会的・職業的自立を促すために必要な意欲・態度や能力を育てる教育です。

教育支援センター

不登校児童生徒等に対する指導を行うために教育委員会及び首長部局が、教育センター等学校以外の場所や学校の余裕教室等において、学校生活への復帰を支援するため、児童生徒の在籍校と連携をとりつつ、個別カウンセリング、集団での指導、教科指導等を組織的、計画的に行う組織として設置したものをいいます。

グローバル化

経済活動や人々の行動が地球的規模、地球的視野で行われるようになることです。

県立学校改革推進プラン

平成 24 年３月に教育委員会が策定した、平成 24 年度から令和３年度までの高校改革を推進するための計画です。３つの基本的コンセプト「生徒が志を持って学び、夢をはぐくむ学校」「生徒や教職員が生き生きと活動して、元気のある学校」「地域の人が集い、地域に愛され、地域とともに歩む学校」を目指すべき県立高等学校像として掲げています。

子ども・子育て支援新制度

平成 24 年８月に成立した「子ども・子育て支援法」、「認定こども園法の一部改正法」、「子ども・子育て支援法及び認定こども園法の一部改正法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」の子ども・子育て関連３法に基づく制度のことをいいます。

コミュニティ・スクール

保護者や地域住民などが、学校運営協議会を通じて、一定の権限と責任を持って学校運営に参画する仕組みです。学校と地域が力を合わせ、互いに信頼し合い、子供たちの成長を支え、地域とともにある学校づくり、地域コミュニティづくりを進めていくことがねらいです。

自己肯定感

自分のあり方を積極的に評価できる感情、自らの価値や存在意義を肯定できる感情などを意味する言葉です。

自己有用感

自分の属する集団の中で、自分がどれだけ大切な存在であるかということを自分自身で認識することです。他人の役に立った、他人に喜んでもらえた等、相手の存在なしには生まれてこない点で、「自尊感情」や「自己肯定感」等の語とは異なります。

自尊感情

自分を価値のある存在として尊重する感情であり、高い人は自分をより肯定的に捉え、低い人は自分を否定的に考えやすくなります。

情報通信技術（ＩＣＴ）

Information and Communication Technology のことです。

人工知能（ＡＩ）

Artificial Intelligence の略で、インターネット上などに存在する膨大な量のデータの中から、統計・確率的に分析を行い、最も確からしい解を導き出すプログラムのことをいいます。

人生100年時代

ロンドン・ビジネス・スクール教授のリンダ・グラットンが、自身の著書「LIFE SHIFT（ライフ・シフト）100 年時代の人生戦略」の中で提唱した言葉です。世界で長寿化が急激に進み、先進国では 2007 年生まれの 2 人に 1 人が 100 歳を超えて生きる「人生 100 年時代」が到来すると予測し、これまでとは異なる新しい人生設計が必要であると述べています。

スクールカウンセラー

学校における教育相談体制の充実・強化を図るために臨床心理士等、心理臨床の専門的な知識・経験を有し、児童生徒のカウンセリングや保護者・教職員等の助言・援助を行う専門家です。

スクールソーシャルワーカー

児童生徒の問題状況に応じて、家庭や学校、医療・福祉等の関係機関との連絡調整を行い、関係機関との連携を通じ、児童生徒の問題解決を支援していく教育・福祉の専門家です。

スクールロイヤー

法的側面からのいじめ予防教育や児童生徒を取り巻く問題について法的アドバイスを行う専門家（弁護士）です。

ＣＥＦＲ

Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment（外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠）の略で、言語能力を評価する国際指標です。語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、分かりやすい、包括的な基盤を提供するものとして、2001 年に欧州評議会が発表したものです。Ａ１、Ａ２、Ｂ１、Ｂ２、Ｃ１、Ｃ２の６段階の共通参照レベルが示されており、このうちＡ１レベルは実用英語技能検定の３級程度、Ａ２レベルは準２級程度に相当します。

総合型地域スポーツクラブ

子供から高齢者まで、様々なスポーツを、それぞれの志向・レベルに合わせて、身近な地域で親しむことができる特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営される新しいタイプのスポーツクラブをいいます。

ソーシャル・ネットワーキング・サービス（ＳＮＳ）

Social Networking Service のことで、インターネット上でコミュニティを作り、人間関係の構築を促進するサービスのことをいいます。

第四次産業革命

18 世紀末以降の水力や蒸気機関による工場の機械化である第一次産業革命、20 世紀初頭の分業に基づく電力を用いた大量生産である第二次産業革命、1970 年代初頭からの電子工学や情報技術を用いた一層のオートメーション化である第三次産業革命に続く、Ｉｏ Ｔ及びビッグデータ、ＡＩなどの技術革新を指します。

地域学校協働活動

地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支えていくそれぞれの活動を合わせて総称したものです。

地域学校協働本部

従来の学校支援地域本部や放課後子供教室等の地域と学校の連携体制を基盤とし、より多くの地域の人々や団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成することにより、地域学校協働活動を推進する体制のことを指します。

地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）

各地域学校協働本部における地域学校協働活動の企画・連絡調整役として、地域や学校の実情に応じた地域学校協働活動の企画・立案、学校や地域住民、企業・団体・機関等の関係者との連絡・調整、地域ボランティアの募集・確保、地域学校協働本部の事務処理・経費処理、地域住民への情報提供・助言・活動促進等の役割が期待されます。

地域未来塾

家庭での学習習慣が十分に身に付いていない中学生等を対象に行われる、大学生や元教員などの地域住民の協力による原則無料の学習支援のことを言います。

千葉県子どもの読書活動推進計画

計画期間を令和２年度から概ね５か年とする、読書県「ちば」を推進する計画です。

千葉県体育・スポーツ振興条例

平成 22 年に開催された第 65 回国民体育大会「ゆめ半島千葉国体」、第 10 回全国障害者スポーツ大会「ゆめ半島千葉大会」では、県民が一体となり、成功を収めることができました。両大会を通じて盛り上がった県民の体育・スポーツへの関心を契機とし、県民生活の一層の向上を図るため、平成 22 年 12 月に制定されました。

ちばっ子「学力向上」総合プラン

ちばっ子の学力向上を図るため、平成 23 年度から策定しているプランです。学習指導要領が目指す学力の実現に向けた取組を、学校現場で活用しやすいよう分類整理して示しています。

ちばっ子チャレンジ100

千葉県教育委員会が全国学力・学習状況調査（小学校の国語、算数、理科）で出題された問題を参考に作成した学習教材であり、小学校で学ぶ基礎・基本から応用までの内容について、児童が様々な場面で取り組めるものになっています。

ちばのやる気学習ガイド

生徒に学習内容への見通しを持たせ、学習意欲を高め学力向上につなげるために、千葉県教育委員会が作成した中学生向けの学習ガイドであり、すべての公立中学校に配付しています。

ちば文化

古くから伝えられた文化、様々な交流によってもたらされた文化、県内各地で取り組まれている新しい文化などが、互いに触発することで、醸成される、多様で豊かな文化です。

中位推計

県は、千葉県の将来人口について、低位（最も人口増加の少ないシナリオ）、高位（最も人口増加が見込めるシナリオ）、中位（高位と低位の中間のシナリオ）の３つのパターンで推計しました。この計画には、平均的な中位推計の値を採用・記載しました。

超スマート社会（Society5.0）

①狩猟社会、②農耕社会、③工業社会、④情報社会に続く、新たな経済社会をいい、具体的には、サイバー空間と現実空間を高度に融合させ、経済的発展と社会的課題解決を両立させることのできる、人間中心の社会のことをいいます。

通級による指導

小学校又は中学校等に在籍している障害のある児童生徒が、校内又は他校にある特別の指導の場（通級指導教室）に通い、障害の状態に応じた特別の指導を受けることを指しています。

ニート（ＮＥＥＴ）

Not in Education, Employment or Training の略で、就業せず、求職活動もしていない人のうち、家事も通学もしていない 15 歳から 34 歳の人のことをいいます。

発達障害

自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥／多動性障害その他これに類する脳機能の障害であって、その症状が通常低年齢において発現する障害のことをいいます。

「早寝 早起き 朝ごはん」

文部科学省が、幼児期からの基本的生活習慣の確立を目指して、国民運動として全国展開している取組です。また、本県では、国の取組に加えて、健康福祉部を中心に「しっかり運動 早ね 早おき 朝ごはん」をスローガンとした、ライフステージ全般における生活習慣病予防のための運動に取り組んでいます。

伴走型の支援

伴走型支援とは、支援者がマンツーマンで対象者を担当し、社会適応のプロセスを支援するという支援モデルのことをいいます。

ひきこもり

様々な要因の結果として、社会的参加（義務教育を含む修学、非常勤職を含む就労、家庭外での交友など）を回避し、原則的には６か月以上にわたっておおむね家庭にとどまり続けている状態をいいます。（他者と関わらない形での外出をしている場合を含む）

ビッグデータ

インターネットや現実空間から採取される大量のデータのことです。これらのデータを解析することにより、新たな価値の創出や知見の発見が可能となります。

開かれた学校づくり委員会

「地域に開かれた魅力ある学校づくり」を推進するため、千葉県内の全ての県立学校（コミュニティ・スクールを除く）に設置している組織を言います。当該校の校長、校長の推薦による委員（ＰＴＡ関係者、教育関係者、地域の方々等）、また必要に応じて当該校の教職員が参加し、学校運営上の課題解決に向けた検討や県内 1000 か所ミニ集会等の企画・運営等に取り組みます。

フリースクール

不登校等、様々な事情や課題を有する子供に対し、学習活動、教育相談、体験活動などの活動を行っている民間の施設を言います。

放課後子供教室

放課後等に全ての小・中学生を対象に、地域の方々の参画を得て、学習やスポーツ・文化活動等の取組を実施する事業です。

放課後児童クラブ

就労などにより、保護者が昼間家庭にいない小学生の児童に対し、授業の終了後に児童館や小学校の余裕教室などを利用して適切な遊びや生活の場を与え、その健全な育成を図るものです。

ポジティブ心理学

私たち一人一人の人生や、私たちの属する組織や社会のあり方が、本来あるべき正しい方向に向かう状態に注目し、そのような状態を構成する諸要素について科学的に検証・実証を試みる心理学の一領域である、と定義されます。

ホスピタリティ

おもてなしの心のことです。

まなびシステムちばネット

県民の生涯学習を支援するシステムです。さわやかちば県民プラザ、各市町村の公民館、大学等で行われる講座の情報を提供するとともに、講座の学習計画･学習記録が書き込める「ちばネット手帳」を配布して、講座約１時間＝１単位として積み重ねた単位により「奨励証」を交付しています。

遊・友スポーツランキングちば

児童生徒の体力向上を図るために、千葉県教育委員会が実施している取組の一つです。各学校の実態に応じて授業や業間・昼休みの時間帯に、児童生徒が遊び感覚で取り組める運動種目を紹介し、積極的に外遊びや運動することを奨励します。

レガシー

「遺産」という意味で、国際オリンピック委員会は、オリンピックが開催都市と開催国に長期的・持続的な効果をもたらす「オリンピック・レガシー」という概念を提唱しています。

ロコモティブシンドローム（運動器症候群）

運動器の障害によって日常生活で人や道具の助けが必要な状態やその一歩手前の状態をいいます。運動器とは、筋肉、関節、骨など、人が移動するために使う器官のことを指します。筋力が低下したり、関節に疾患があったり、骨がもろくなっていたりすると、運動機能が低下し日常の生活に不便が生じます。こうした運動機能の低下は高齢期に入ってからではなく、初期症状は 40 代から始まると言われており、中年期から意識し予防する必要があります。

ワーク・ライフ・バランス

誰もが、仕事と育児、介護、自己啓発、休養、地域活動、ボランティア活動など、様々な活動を自らの希望どおり展開できる状態のことです。

第３期千葉県教育振興基本計画
次世代へ光り輝く「教育立県ちば」プラン

令和２年３月

編集・発行／千葉県教育委員会
（企画管理部教育政策課）

〒 260-8662　千葉市中央区市場町１－１
電話　043 － 223 － 4177

印刷／株式会社白樺写真工芸

みんなで取り組む
千葉の教育